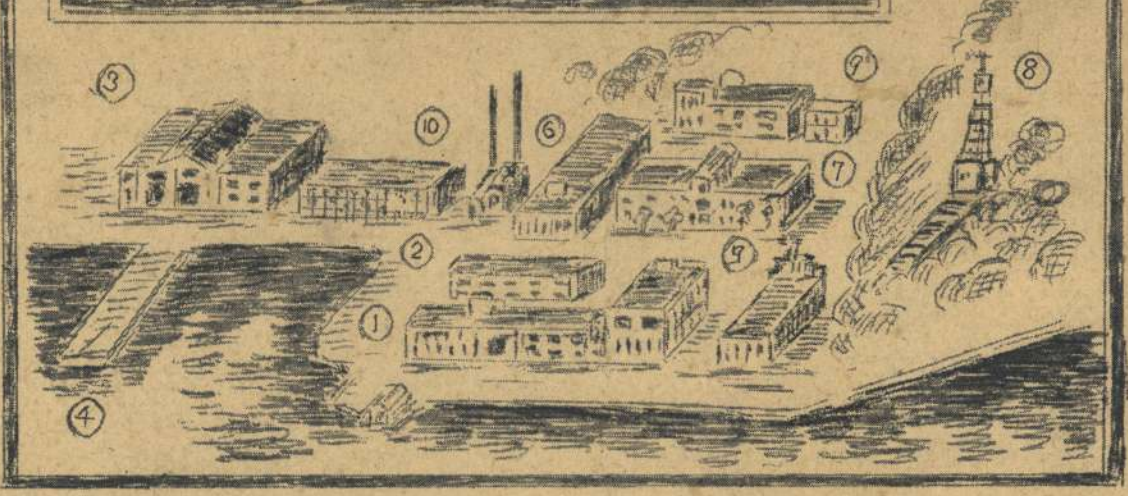


EIKO NEWS FLASH



No. 1 January 1949.

夏山の真時な夕立雲からいなるまが輝く時、登山者は恐怖と共に前途がはつきり照らされた事を感謝する如く、晴い不安に満ちた世間は此の横須賀の長浦港の北端にある栄光中学校からのニュースを大抵びて迎えるでしよう。

別天地とも云われる此の学校の、楽しい清い而も厳格で規則正しい生活のニュースを、黒雲からの稲妻のように思われる方が多い中、しよ、然し此の学校といつても何も別天地ではなく、先生も生徒も皆さんと同様の人間です。どうして今の様な時代にこう云う幸福な学校生活が出来るのでしよ、か金銭の結果でもなく頭の問題でもない。これは心の問題です。先生を始め生徒も皆な大いに悟りを用いた。それは人が良心に従って生活すると始めて自由になり幸福になる事が解ったからです。人は食べる為に生きていません、自分を送り給うた神に仕えながら、自分の永遠の幸福を造る為に生きています。此の信念こそ栄光の生活の土台であり秘密であります。此の土台の上に建てられた栄光の精神的殿堂を此のいなづまの光りの下に広く人々に紹介したいと思ひます。

昭和二十四年一月 (丁記)

学窓から

「かたつたるいなあ、」又この道々を毎日毎日てくてく歩いて通わなければならぬの、これ、これは正月の休みも過ぎた始業式の朝の会話であつた。僕らの学校は歌から少し遠いからこんな会話が出たのであろう。然し美しく澄んだ碧空の下にそびゆる黄色の壁に窓枠を青色に染めつけた校舎は、碧々とした海のそばにあり、又背後には「天狗」の住まなげが美しい小舟の漣り声に満たされた小山が並んでいる。海と山との間にある校舎は、市中の学校よりも空気がすみしむのけんこうに大変よい。教室内に目を転じると、クリム色の壁にかこまれた明るい教室、その中には新しい机が勢ぞろいしている。

これらのかんまよつた育つ僕等は幸福であり、そして一生懸命勉強して行かなければならぬ。

(二B)

校内設備の完備

本校は生れてから、二年しかたっていない赤ちゃんであるが

校内設備の方はもう大人である。即ち教室にしても、各級の教室の外に、音楽、図画、理科等の特別教室もある。特に理科教室の器具・薬品においては、市内随一と云ふ程のものである。他に合併教室と図画室とがある。図画室は一年前に生徒達が集めた書籍をもと、して発足したもので、貴重な書物もあり、多くの生徒達が利用している。又運動方面では、競技場、二つのテニスコート、ピンポン室等の運動場があり、又種々の運動用具が取揃えてある。中でも、野球のグローブはアメリカから送り来たもので、下手な者でも楽しく出来ると云う、実にすばらしいものである。校舎の方も、本校では何一つ不足なく、海岸の田浦から、朝は流れる霧のまにまに、昼はすっきりとした空と青い海との間に眺められるみかん色の殿堂は、校内設備の完備によつて倍加する本校の、楽しい学校生活の象徴である。

(二A)

僕らの先生

我が母校には外国人の先生が

1	中学部校舎
2	事務館
3	講堂 体育館(続)
4	長浦港
5	理科校舎
6	住宅台
7	気象台
8	住家
9	住家
10	高野部校舎

半致を断っている。うち三人の先生は日本に留学されておられる。僕らに對して、英語の教鞭を取つておられる。こうした事が僕達に、広く吾界の習儀を俾得し合せて今後大切な英語を学ぶという機会を与えてくれる。我が校に於て先生と生徒との間に、壁の様な障りがないと云えは誤解されるかも知れないが、彼等中へも遊んで居る所でも、先生に對して礼儀を守るべき所には、よく守り、遊ぶ時には先生の心に添い合ふでしよう僕等である。こういう事は、我々の秀を解せぬ秀三君から見れば、先生に對して不礼であると評するかも知れないが、教室に於ては、先生と生徒の間は厳密でなければならぬ。しかし休み時間には、冗談も飛ばし合ふし、攻き出すような皮肉も言い合ふ——という事は、先生に對して不礼にあらぬと思ふ。僕等の先生は、生徒の慶びを先生の慶いと置き、その悲しみを御自身のものとされる。僕はこんな慶しむ先生方を待つ、栄光中學生は本当に幸福だと信ずる。

勉学

「毎日毎日宿題を出されて、その上学校では六時間を見つり勉強し、家に帰っては二、三時間勉強しなければ間に合わない。しとニコニコしながら生徒

の云うのが僕等栄光中學校の現状である。その間なら学校がいやでしよう。」といわれども「それでも僕は学校が大好きで、奥口同様に云うのはなせだらうか。實際僕も毎日机に向つて一生懸命だが決して一度もいやだと思つたことはない。なせだらうか。六時間も勉強と云うのは、次ぎから次ぎへとやつて居るが、その一時間一時間の先生の講話が面白くはつきりわかるから決して苦にならない。これはきつと良い先生が居るから親切におしえて下さるからだ。宿題も必ず毎日出る。然し少しも苦にならない。反つて楽しいのは、宿題が習つたことであり、又一つ一つ先生が細い所まで親切に直して下さるからだ。そして僕達だんだんと學校が好きになつてゆくのは、世界と云う大い立場から人類愛に燃えて愛の力、即ちカトリック教によつて崇高な目的に知らず知らずの間、導かれてゆくからだ。カトリック教、キリスト教など、入學當時はなんともなく直つていきい気があつたが、今は自分から進んで行こうという気持ちになつてしまつた。栄光中學校とはこんな気持ちにまつ、まれたばかりの樂園だ。

僕等の校庭

カン／＼。授業の終の鐘が

響く。するとあちらの出口からもちろの出口から、頭髪をのばした生徒がたのしそうに出て来る。ほつとした様子をしながら、出て来る者、時間中にしほられた髪を回復させようとする者等が何時もこの二つの出口から顔を見せる。級長の号令下一、生徒は授業中の元気を拵つて広い校庭のかげに拡がってゆく。彼等は、この十分間を合理的に使つて居る。ピンポンをやるもの、コロベイス・ドッチボール・長馬をやる者等、多種多様である。全政衆を見渡しても、だれもがこれらのスポーツを正統と秩序を辨つてやつて居る事は、たまに未訪するよその人でも理解されてくれる。この様子は本校の生徒は授業にも運動、当番、作業にも全力をつくすを尊ぶとする。ゆえに全力をつくした以上のその衝の程度は問題にしない。たゞん彼等の校庭も彼等の動作に満足して居るに違ひない。

行幸

今度入學する人の中に、「学校では、勉強ばかりしているのかな。」と思つている人がいると思ひます。所がどうして、仲々の沢山な行幸があるのです。

デマ

世間には僕達の學校について、多量のデマが飛んで居る。その一例を挙げれば、この間、僕が風呂に行くとき、まだ知らない小學校五年くらいの子が、「おまえ栄光行つてんだろ。」と聞いた後、「栄光は脚伸ばさず、やいやいなんだってな。」とか、「歩いて一人じゃあ坂下行つちやあけなくて、自転車ならいいんだってな。」等といった。又どこから聞き込んだのか知らぬけれども、「月報高いたらう。倉がこつてりなくちやあ行けぬぞ。」等といつていたし、(實際はそんなことなく月報も少く、寄附なんかまだ一度もない。)二、三日前に会つたH君等は、「駅エジリアが迎えて来るんだってな。気分満ちたろう。」等言つていた。その様なことは皆をたらめだ。僕達の學校も他の學校とあまり変りない。かゝつた所は校舎と先生と生徒の気風と勉強に對する熱心さだと思ふ。だけれどもなぜこんなデマがとぶかと思ふと不思議であり、栄光の生徒がばらまいたかもしれないと秀三君とはなはだいかに思う。今後は平當の姿を世間に示し、良いところを誇りとし、悪いところは直さうと思ふ。

栄光中學校

昭和二十四年一月発行
栄光ニュース・フラスチエ
栄光新聞部
横濱市田浦町